

阿弥陀峯あみだがみね〔今豊国山こよくにやまといふ。慶長三年豊臣秀吉公とよとみを阿弥陀が峰に葬送す。世に此時の列式あり、八月十八日に薨御

ありて翌二月十八日此嶺に葬す、導師高野山興山上人こうざん、其外諸宗の僧徒出る、勅使は菊亭右大臣晴秀公ひろはた廣幡大納言長重卿、御供列国の諸侯惣同勢凡而三万余人。云々〕

枕草紙云 峰はあみだが嶺〔慶長年中豊国社造営とよくにのやしろの後、阿弥陀が峰を三条の東粟田山に移す〕

頭昭拾遺抄云 鳥辺山はあみだが峰なり、そのすそを鳥部野といふ無常所なり。

家集 今よりはあみだが嶺の月影を千世の坂までたのむべきかな 公 任

懷中集 道しげくさはりおほかる身なれどもあみだが嶺はゆかんとぞ思ふ 読人しらず

覆醬集 題豊国神廟壁こよくにのやしろ

零落ス東山古廟廓。蒼苔蔓草上ル頽墻ニ。 丈 山

英靈飛散シテ無ニ巫祝一。秋月春風作ニ主張一。

豊国社の花の枝につけて円爾上人のもとへ

黄葉集 一枝もたがためならで手折けり心を花の色になるやと 光 広 卿